

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「ソーシャル・キャピタル創出とヘルスケアデータ一元化による地域包括ケアシステム研究拠点の形成」(KAGUYA プロジェクト)

平成 29 年度研究成果報告書

1. 研究目標

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
- 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発
- 3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証
- 4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

2. 平成 29 年度研究計画

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
 - (1) 壮年期ベースライン調査のデータクリーニング及び高齢者ベースライン調査及び壮年期ベースライン調査の統合を行う。
 - (2) ベースライン調査（高齢者、壮年期、両者の統合）の解析し、実態を把握する。
 - (3) 調査結果について、GIS（地理情報システム）を用いてマッピングを行う。
 - (4) ベースライン調査と町が保有するデータの一元化を目指した協議を町と継続的に行う。
- 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発
 - ① 広陵町地域包括支援センター職員とともに定例会議を開催し、情報の共有および意見交換を行う。
 - ② 学生とともに認知症カフェに参画し、フィールド確保を継続する。
 - ③ 広陵町内の認知症カフェや老人クラブにおいて、開発したアプリケーションの有効性について、データ収集および得られたデータを分析する。
 - ④ 認知症ケアに関する医師や CNS・DCN などの専門家にアプリケーションの内容について意見を求め、内容妥当性の確保とともに質問肢を精練する。
 - ② 認知症アプリケーションにふさわしい名前を募集し、命名する。
 - ③ 前年度、投稿した研究成果について各学会、論文等で成果を公表する。
 - ④ 研究会や学会等に参加し、最新の知見を得る。
- 3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証
 - ① 介護予防リーダーの継続的育成と有効性に関する検証：昨年度に引き続き介護予防リーダー養成講座は実施される方向性で検討中である。また活動後一定期間を経た段階で体力測定や活動に対する意識調査を実施していく予定である。意識調査においては活動による主観的健康感の変化や活動に対する自己効力感などを聴取する予定である。
- 4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

- ① 学生チームによる小規模での実践活動
- ② TASK の学生募集、定期活動の継続
- ③ 小規模での実践活動の継続
 - ・KEEP、認知症班との連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。
- ④ 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果
 - ・学生に対する現在の健康行動や住民支援の理解度、地域への意識等の事前評価を実施する。
 - ・文献レビューから教育効果が得られやすい研修内容・方法論を検討する。
- ⑤ 高齢者調査、壮年期調査から若者との交流等の健康関連指標との関係について検討する。

3. 研究成果の概要

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
 - (1) 壮年期ベースライン調査のデータクリーニング及び高齢者ベースライン調査及び壮年期ベースライン調査の統合を行った。
 - (2) ベースライン調査の分析
 - ① ベースライン調査として行いデータベース化した高齢者アンケート回答結果および壮年期アンケート回答結果の可視化および分析方法について検討した。
 - ② 高齢者・壮年期ベースライン調査の解析を進め、学会発表を行った。
 - (3) ヘルスケアデータの一元化について広陵町と協働し、研究目的で利用するデータ項目の選定を行った。
 - (4) 広陵町情報公開・個人情報保護審査会に畿央大学への町民ヘルスケアデータの外部提供の可否について諮問し、2017年2月の答申にて適正な運用による健康情報開示許可を得ることができた。
 - (5) ベースライン調査と町が保有するデータの一元化を目指した協議を町と継続的に行った。
 - (6) 調査結果について、GIS（地理情報システム）を用いたマッピングについては、改正個人情報保護法（2017年5月30日に全面施行）に伴う手続き変更があり、若干の時間を要したことにより、現在未着手であるため引き続き次年度の課題とする。
- 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびアプリケーション開発
 - (1) 広陵町地域包括支援センターの10回/年の定例会議の実施

毎月一回(8月と3月は除く)の定会議において、認知症ケアに関する意見交換およびアプリ案の検討を行った。
 - (2) アプリケーションのプロトタイプ素案の作成

高齢者調査の結果から住民の認知症に対する不安軽減のためのアプリケーションのワイヤーフレームを作成した。
 - (3) ユーザーテストの実施

特別養護老人ホームにおいて、80歳台の高齢者に対して、アプリの使用のしやすさ、聞き取りやすさ、入力のしやすさ、回答しやすさについて確認のためのユーザーテストを実施した。
 - (4) 認知症スクリーニングの使用許諾の確認

HDS-R の作成者(権利者)アプリとしての使用許諾を確認したが、内容妥当性・信頼性が担保されていないことから結果としては不承諾となったため、アプリケーションの案を別の方法での質問を検討した。

(5) 町内の認知症カフェの参画

学生とともに町内のひまわりカフェ(認知症カフェ)に参加し、今後データ収集するフィールドの確保および認知症カフェに関する啓発活動として看板を作成した。

(6) 研究成果の公表

第 32 回国際アルツハイマー病協会国際会議、第 18 回日本認知症ケア学会(沖縄)および第 22 回日本老年看護学会(名古屋)において認知症の認識に関する結果を公表した。

3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成

(1) 受講生への知識確認および健康・認知症等への認識の変化などの調査を実施

- ① 介護予防リーダー養成講座の実施
- ② 平成 30 年 2/13~3/20 まで全 11 回の養成講座により 23 名の介護予防リーダーを新たに養成し、健康チェックとして受講者の体力測定を同時に行った。
- ③ 介護予防リーダー (KEEP) 活動の支援
平成 29 年 5 月のフォローアップ研修にて運動プログラム指導を行い、9 月に実施された KEEP 実践発表会へアドバイザーとして参加した。
- ④ 第二回シニアキャンパスでの KEEP による体操コーナーの実施

4) TASK との合同勉強会・意見交換会

・シニアキャンパスと同日、KEEP メンバーと本学の健康支援学生チーム TASK による健康維持に関するテーマで意見交換会を実施した。

(1) 認知症サポーターの公募・養成講座を 3 回、6 箇所を実施

- ① 認知症サポーターの公募・養成講座については、TASK 学生に対して 1 回と学科内の看護学生に対して 1 回実施した。
- ② 広陵町内の認知症カフェ「ひまわりカフェ」に参加した。

4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果

(1) 住民リーダーとの連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。

- ① TASK の学生募集、定期活動の継続
 - ・TASK の募集を行い、昨年よりも増加し、5 学科約 170 名の学生が登録されている。
 - ・勉強会 計 10 回

勉強会	日付	内容
1	2017/4/17	骨と栄養との関係
2	2017/5/18	体力測定

3	2017/6/21	応急救護
4	2017/6/23	認知症セミナー
5	2017/7/13	ヨガ体験
6	2017/8/13	正しい筋トレの方法
7	2017/9/27	疲れ目解消法
8	2017/10/26	食育 SAT システム
9	2017/11/16	高齢者体験
10	2017/12/21	家庭内事故を防ぐ住まいづくり

② 小規模での実践活動

- ・昨年同様、広陵町内での活動および他のプロジェクト（KEEP、認知症班）との共同事業を行った。
- ・地域実践活動 計 10 回

活動	日付	内容
1	2017/4/22	広陵町身体体力測定会(保健センターと共同)
2	2017/6/18	認知症カフェ(認知症班と共同)
3	2017/8/6	いのちを守るイベント(保健センターと共同)
4	2017/10/22	畿央祭ウエルカムキャンパス
5	2017/10/28	広陵町身体体力測定会(保健センターと共同)
6	2017/12/17	認知症カフェ(認知症班と共同)
7	2018/1/21	認知症カフェ(認知症班と共同)
8	2018/2/18	認知症カフェ(認知症班と共同)
9	2018/2/23	第 3 回シニアキャンパス(KEEP と共同) (地域包括支援センターと共同)
10	2018/3/13	介護予防リーダー養成講座(KEEP と共同) (地域包括支援センターと共同)

③ 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果

- ・継続的に情報収集及びレビューを行い、評価指標および調査方法を検討している。
- ・研究員による TASK 勉強会の観察を行った。

4. 平成 30 年度研究計画

(1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究

- ① 高齢期追跡調査を行う。
- ② ベースライン調査（高齢者、壮年期、両者の統合）の解析し、引き続き実態を把握する。
- ③ 調査結果について、GIS（地理情報システム）を用いてマッピングを行う。
- ④ 町民の活動データ収集および健康情報表示のための iPad を用いたキオスク端末を開発する。

⑤ ベースライン調査と町が保有するデータの一元化を目指した協議を町と継続的に行う。

(2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発

- ① 広陵町地域包括支援センター職員とともに定例会議を引き続き開催し、情報の共有および意見交換を行う。
- ② 学生とともに認知症カフェに参画し、フィールド確保を継続する。
- ③ アプリのワイヤーフレーム素案を修正し、「きおトレ」アプリを作成する。
- ④ 広陵町内の認知症カフェや老人クラブにおいて、開発したアプリケーションの有効性について、データ収集および得られたデータを分析する。
- ⑤ 前年度、投稿した研究成果について各学会、論文等で成果を公表する。
- ⑥ 研究会や学会等に参加し、最新の知見を得る。

(3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証

- ① 介護予防リーダーの継続的育成と有効性に関する検証：昨年度に引き続き介護予防リーダー養成講座は実施される方向性で検討中である。

(4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

学生チームによる小規模での実践活動

- ① TASKの学生募集、定期活動の継続
- ② 小規模での実践活動の継続
 - ・KEEP、認知症班との連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。
- ③ 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果
 - ・学生に対する現在の健康行動や住民支援の理解度、地域への意識等の事前評価を実施する。
 - ・文献レビューから教育効果が得られやすい研修内容・方法論を検討する。
- ④ 高齢者調査、壮年期調査から若者との交流等の健康関連指標との関係について検討する。

5. 論文及び学会発表

1) 論文

- ① 高取克彦. 住民主体の介護予防促進とソーシャル・キャピタルの醸成. 畿央大学紀要, 14 (2), 1-5, 2017 (総説)

2) 学会発表

- ① Yamasaki N, Moon JS, Takatori K, Matsumoto D, Miyazaki M, Fukumori M, Nanbu T, Shimaoka M, Terada M, Yoshida H, on behalf of KAGUYA Project Team. The current state of the recognition and the issue for dementia with older people in Nara, Japan: KAGUYA Project baseline survey. 第32回国際アルツハイマー病協会国際会議, 2017年4月, 京都市
- ② 山崎尚美, 文鐘聲, 高取克彦, 松本大輔, 宮崎誠, 南部登志江, 島岡昌代, 寺田美和子, 福森貢, 吉田浩子. A町の高齢住民の認知症に関する準備性—KAGUYAプロジェクト高齢者ベースライン調査.

第 18 回認知症ケア学会，2017 年 5 月，沖縄県

- ③ 文鐘聲，高取克彦，山崎尚美，松本大輔，宮崎誠．地域在住高齢者のソーシャル・キャピタルと抑うつとの関連．第 59 回日本老年医学会，2017 年 6 月，名古屋市
- ④ 文鐘聲，山崎尚美，高取克彦，松本大輔，宮崎誠，吉田浩子．新興住宅地域と旧村地域におけるソーシャル・キャピタルと健康の地域間格差—KAGUYA プロジェクト高齢者ベースライン調査．第 59 回日本老年社会科学会，2017 年 6 月，名古屋市
- ⑤ 高取克彦，松本大輔，宮崎誠，山崎尚美，文鐘聲．地域高齢者における自己認識年齢と健康関連指標および日常生活活動能力との関係．第 59 回日本老年医学会，2017 年 6 月，名古屋市
- ⑥ 山崎尚美，文鐘聲，高取克彦，松本大輔，宮崎誠，南部登志江，島岡昌代，寺田美和子，福森貢，松本泉美，吉田浩子．高齢住民のエンパワーメント力と認知症の認識との関連性—KAGUYA プロジェクト高齢者ベースライン調査．第 22 回日本老年看護学会，2017 年 6 月，名古屋市
- ⑦ 文鐘聲，松本大輔．地域住民のソーシャル・キャピタルと主観的健康感—KAGUYA プロジェクト．第 76 回日本公衆衛生学会，2017 年 10 月，鹿児島市
- ⑧ 高取克彦，松本大輔，宮崎誠，山崎尚美，文鐘聲．地域高齢者の運動習慣形成に影響する心理的要因の検討：KAGUYA プロジェクト．第 6 回日本ポジティブサイコロジー医学会学術集会，2017 年 11 月，東京都
- ⑨ 宮崎誠，山崎尚美，高取克彦，松本大輔，文鐘聲．認知機能自己チェックアプリケーション「きおトレ」の開発．情報処理学会第 80 回全国大会，2018 年 3 月，東京都

6. その他

- ① 2018/2/20（月）「畿央大学シニアキャンパス シニア世代のためのオープンカレッジ～認知症について考えよう～」 @畿央大学 を開催した。
広陵町と共催し、KAGUYA プロジェクト進捗報告会、愛媛大学医学部谷向知先生による講演「認知症から学ぶ幸せな呆（ほう）け方」、その他、オレンジ喫茶、介護予防のための運動教室が開かれた。
- ② 広報こうりょう平成 29 年 12 月 1 日号から平成 30 年 4 月 1 日号の 5 回にわたり、ベースライン調査の概要を地域住民に広く伝えることができた。
- ③ 学内教職員による会議 毎月 1 回、計 12 回開催（全てコア会議）